

健康・介護状況調査の結果（概要）

I 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の対象
- (3) 調査基準日
- (4) 調査の期間
- (5) 調査の方法
- (6) 調査結果の取りまとめ

II 調査結果の概要

1 回答者（集計対象者）の概要

- (1) 区分（孤児・配偶者、本人・配偶者の区分）
- (2) 性別、年齢
- (3) 居住地

2 回答の集計結果の概要

- (1) 現在の健康状態について
- (2) 身辺自立度について
- (3) 要介護認定調査について
- (4) 介護サービスの受給について
 - （受給者）
 - ①受給サービスの種類
 - ②中国語でのサービスの有無
 - ③現在受給しているサービスの満足度
 - （非受給者）
 - ①介護サービスを受けていない理由
- (5) 帰国者の介護についての考え方、要望等

令和 2 年 5 月

I 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、公益財団法人中国残留孤児援護基金（以下「援護基金」）が中国帰国者本人と配偶者の健康状態と介護サービス受給の現状を調べ、今後の援助の在り方を検討する資料とするために実施した。

(2) 調査の対象者

援護基金が機関紙「援護基金」を送付している中国帰国者本人とその配偶者。但し、帰国者本人については原則として終戦時にすでに出生していた者を対象とした。

(3) 調査基準日

令和元年5月1日

(4) 調査の期間

平成31年4月～令和元年6月

(5) 調査項目・調査方法

調査項目は、援護基金が平成25年12月に行った「介護状況調査」（調査基準日：平成25年12月1日、以下「前回調査」）に準じて次の項目としたが、回答のしやすさ等を考慮して選択肢等に若干の修正を加えた。

1. 現在の健康状態について
2. 日常生活における身辺自立度について
3. 要介護認定調査について
4. 公的介護サービスの受給について
5. 帰国者の介護についての考え方、要望等

また、上記「4. 公的介護サービスの受給について」の下位項目として、サービス受給者に対して「中国語でのサービスの有無」についての質問を新たに付け加えた。

調査方法は質問紙調査（アンケート調査）法によった。上記「調査の対象者」の各世帯宛に、援護基金機関紙「援護基金第81号」に日本語と中国語が併記された調査依頼書、「健康・介護に関する調査票」、及び返信用封筒（受取人払い）を同封して郵送した。

原則として各世帯に帰国邦人「本人用」と「配偶者用」の調査票（兼回答用紙）を同封したが、本人または配偶者のいずれか一方だけ居住していることが事前にわかってい

る場合には、調査票を1部だけ送付した。

質問への回答の記入は原則として帰国者本人・配偶者が自ら行うよう求めたが、対象者本人が高齢化しており健康に問題を抱える者が少なからずいること、中国語の非識字者・半非識字者も含まれること等から、代筆者（氏名及び対象者との関係を明記）による回答記入も認めた。

（6）調査結果の取りまとめ

2,487世帯に調査票を送付し、898世帯から1,476名分の返信があった（世帯単位の返信率：36.1%）。

この返信分から、調査票（兼回答用紙）への記入がほとんどないものや調査とは無関係の内容のみ記述してあるもの、及び対象者の死亡を知らせるもの16通を除いた分（1,460名分）を今回調査の「回答」とし、集計分析を行った。

各質問に対する回答の集計では、その質問への回答が無いものを「無回答」として回答数から除外して集計した。また、選択肢から択一で答えるべき質問項目において複数を選んで答えた者が少なくなかったが、選択肢すべてを選ぶ等明らかに無効な回答と判断できるものを除き、無効回答とせず選んだ複数項目に均等配分して集計した。

パーセンテージは原則として少数第二位を四捨五入した値で表すこととした。

II 調査結果の概要

1 回答者（集計対象者）の概要

(1) 区分（帰国者本人・帰国者配偶者の区分）、性別

回答者1,460人の区分は、帰国者本人が866人、配偶者が594人。性別は、男626人、女834人となっている。

5年半前の前回調査よりも合計人数が1割ほど少なくなっている。特に男の帰国者本人が減っている。

(回答者の区分)	男		女		合 計		前回調査	
帰国者本人	340人	(23.3%)	526人	(36.0%)	866人	(59.3%)	980人	(60.9%)
帰国者配偶者	286人	(19.6%)	308人	(21.1%)	594人	(40.7%)	628人	(39.1%)
合 計	626人	(42.9%)	834人	(57.1%)	1460人	(100%)	1608人	(100%)

前回調査	720人	(44.8%)	888人	(55.2%)	1608人	(100%)
------	------	---------	------	---------	-------	--------

(2) 年齢

年齢不明の6名を除いた1,454名の中国帰国者本人及び配偶者の令和元年5月1日現在の平均年齢は77.3歳であった。

帰国者本人の平均年齢は78.0歳、配偶者の平均年齢は76.4歳、男女別では男の平均年齢が78.6歳、女の平均年齢が76.4歳であった。

※ 本人申告の年齢は満年齢であったり数え年であったり様々であるため、援護基金データベースに生年月日データがある者（帰国者本人の大部分）については生年月日データから計算された年齢を用いたが、データベースにそのデータがない者については本人申告年齢を用いた。

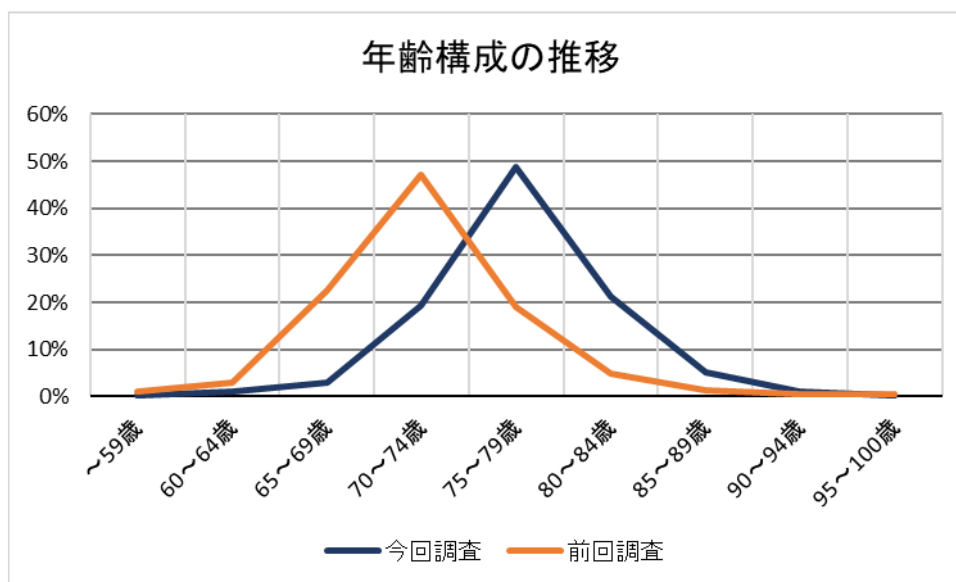
前回調査では、全体の平均年齢が72.1歳であったが、約5年半が過ぎ、この間に亡くなったり入院・入所したりして調査に回答できなくなった高齢帰国者も少なくないことから、平均年齢が約5.2歳高くなったことは合理的と考えられる。

5歳区切りで年齢構成を見ると、70代後半が48.7%と半数近くを占め、それを挟んで80代前半が21.2%、70代前半が19.3%となっており、70代と80代前半で全体の9割近くを占めている。

前回調査からほぼ5年半が経過したため、5歳区切りの年齢構成の値がちょうど一区

切りずつ移動したような形になっている。

(回答者の 年齢層別 人数)	帰国者本人			帰国者配偶者			合 計			前回調査 %	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
～59歳	0	0	0	0	3	3	0	3	3	0.2%	1.0%
60～64歳	0	1	1	1	14	15	1	15	16	1.1%	3.0%
65～69歳	1	4	5	2	36	38	3	40	43	3.0%	22.7%
70～74歳	51	88	139	25	116	141	76	204	280	19.3%	47.3%
75～79歳	194	287	481	112	115	227	306	402	708	48.7%	19.0%
80～84歳	78	106	184	103	21	124	181	127	308	21.2%	5.0%
85～89歳	12	27	39	34	2	36	46	29	75	5.2%	1.4%
90～94歳	2	11	13	5	0	5	7	11	18	1.2%	0.6%
95歳～	0	3	3	0	0	0	0	3	3	0.2%	0.6%
計	338	527	865	282	307	589	620	834	1454	100%	
不明	0	1	1	2	3	5	2	4	6		
合 計	338	528	866	284	310	594	622	838	1460		



(3) 居住地

回答者1,460人中の55%以上が「首都圏ブロック」に居住している。中でも東京都には、266世帯(全体の30.6%)、437人(全体の29.9%)が集中して

いる。東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県には全体の半数近く（回答者の48.4%、49.6%の世帯）が居住している。

ブロック 都道府県		世帯 数	人数	ブロック合計	
				世帯数	人数
北海道	北海道	14	23	14	23
				(1.6%)	(1.6%)
東北	青森県	5	8	45	76
	岩手県	4	7		
	宮城県	12	23		
	秋田県	2	4		
	山形県	11	18		
	福島県	11	16		
首都圏	茨城県	11	16	496	804
	栃木県	8	12		
	群馬県	10	16		
	埼玉県	45	70		
	千葉県	37	64		
	東京都	266	437		
	神奈川県	83	135		
	新潟県	7	10		
	山梨県	3	4		
	長野県	26	40		
東海北陸	富山県	3	6	77	128
	石川県	3	4		
	福井県	4	7		
	岐阜県	14	24		
	静岡県	8	15		
	愛知県	45	72		

ブロック 都道府県		世帯 数	人数	ブロック合計	
				世帯数	人数
近畿	三重県	3	6	146	235
	滋賀県	1	2		
	京都府	18	29		
	大阪府	101	160		
	兵庫県	22	36		
	奈良県	1	2		
	和歌山県	0	0		
			(16.3%)	(16.1%)	
中国四国	鳥取県	1	2	55	91
	島根県	0	0		
	岡山県	8	15		
	広島県	18	33		
	山口県	1	2		
	徳島県	1	2		
	香川県	8	10		
	愛媛県	1	1		
	高知県	17	26		
九州	福岡県	28	44	63	103
	佐賀県	1	2		
	長崎県	10	16		
	熊本県	9	18		
	大分県	3	4		
	宮崎県	1	1		
	鹿児島県	6	9		
沖縄県	5	9			
			(7.0%)	(7.1%)	
合計		896	1460	896	1460

2 回答の集計結果の概要

(1) 現在の健康状態について

(全員に対して)

問1 あなたの現在の健康状態はどうか。

1. 健康。
2. まあ健康。一般的。(いろいろ病気はあっても年齢相応)
3. 健康に問題を抱えている。通院、治療が生活の大きな部分を占めている。
4. 重病。寝たきり。入院中。

この質問には1460名中1452名が回答した。

半数以上の人「3 健康に問題を抱えている。通院、治療が生活の大きな部分を占めている。」を選択した※。前回調査の結果※※と比べると、健康状況についての認識がやや悪化してきている。

(健康状態)	回答数(票数)	%	前回調査
「1健康」	95.5	6.6%	44.6%
「2まあ健康…」	521.5	35.9%	
「3問題あり…」	776.5	53.5%	49.8%
「4重病…」	58.5	4.0%	5.6%
回答数(票数)合計	1452	100%	100%

※ 4択のうち一つを選ぶものであったにもかかわらず、回答者の中には「1」と「2」、「2」と「3」、「3」と「4」、のように複数を選んだ者も少なくなかったため、これを無効とせず、例えば「1」と「2」を選んだ場合には、「1」と「2」に各0.5票と計算した。

※※ 5年半前に行われた前回調査では、自由記述の形で回答するよう求めた。その回答を便宜上、①「健康。まあ健康。年齢相応。」、②「健康に問題あり。通院、治療が生活の中心を占める。」、③「重病。寝たきり。入院中。」のどれかに分類して集計した。今回は前回調査の集計上の問題を踏まえ、上のような4択の選択方式とした。

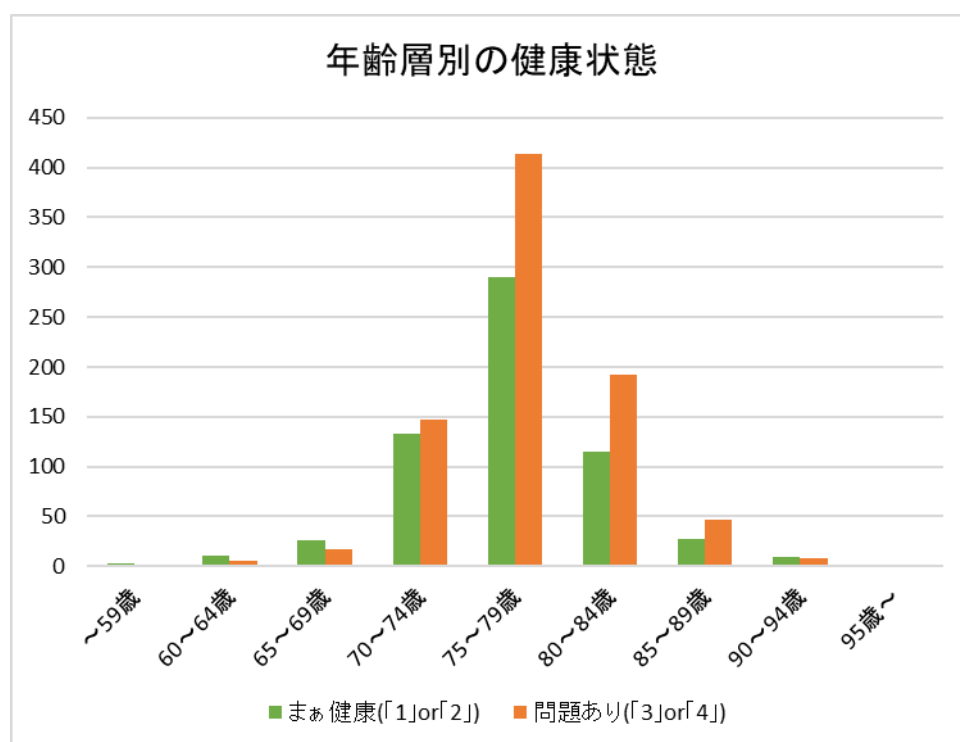
この問いに対する回答者1452名から年齢不明の5名を除き、1447名について年齢層と健康状態との関係を見た。

ほぼ年齢層が上がるにつれて、「1」または「2」と答えた者の割合が減り、「3」または「4」と答えた者の割合が大きくなっている。70歳以上になると半分以上の人が「3」

または「4」と答えている。

(年齢層別 健康状態)	～59 歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 歳	計 (人) (%)	
「1健康」	2	3	4	16	47	16.5	4.5	2.5	0	95.5	6.6%
「2まあ健康…」	1	7	21.5	117.5	243.5	98	23	6.5	1	519	35.9%
「3問題あり…」	0	6	17.5	139	385.5	177.5	41	6.5	2	775	53.6%
「4重病…」	0	0	0	7.5	28	15	5.5	1.5	0	57.5	4.0%
回答数(票数)合計	3	16	43	280	704	307	74	17	3	1447	100%

健康(「1」or「2」)	100%	62.5%	59.3%	47.7%	41.3%	37.3%	37.2%	52.9%	33.3%	42.5%
問題あり(「3」or「4」)	0%	37.5%	40.7%	52.3%	58.7%	62.7%	62.8%	47.1%	66.7%	57.5%



(2) 身辺自立度について

(全員に対して)

問2 あなたは日常生活において、自分で身の周りのこと（着替え、食事作り、買い物、トイレ、入浴など）をどのくらい出来ますか。

1. 身の周りのことは全部又はほとんどできる。日常生活に大きな支障はない。
2. 日常生活に支障が生じているので、家族などに手伝ってもらっている。
3. 日常生活のほとんどを他の人に介助してもらっている。

身の周りのことを自分でできるかを聞いた。この間に対する回答者1,331人の58%が「1大きな支障なし」と答えた※が、前回調査の結果と比べて全体的に自立度が下がり支援を必要とする者の割合が増えている。

※ 回答者の中には複数を選択した者も少なくなかったため、前問と同様の方法で集計した。

(身辺自立度)	回答数(人)	%	前回調査%
1. 支障なし	772	58.0%	66.2%
2. 支障あり	440	33.1%	25.8%
3. ほぼ全面介助	119	8.9%	8.0%
回答者数合計	1331	100%	100%

年齢層別の自立度を見るために、回答者1,331人中年齢不明の6人を除いた1,325人についてまとめたのが次の表である。

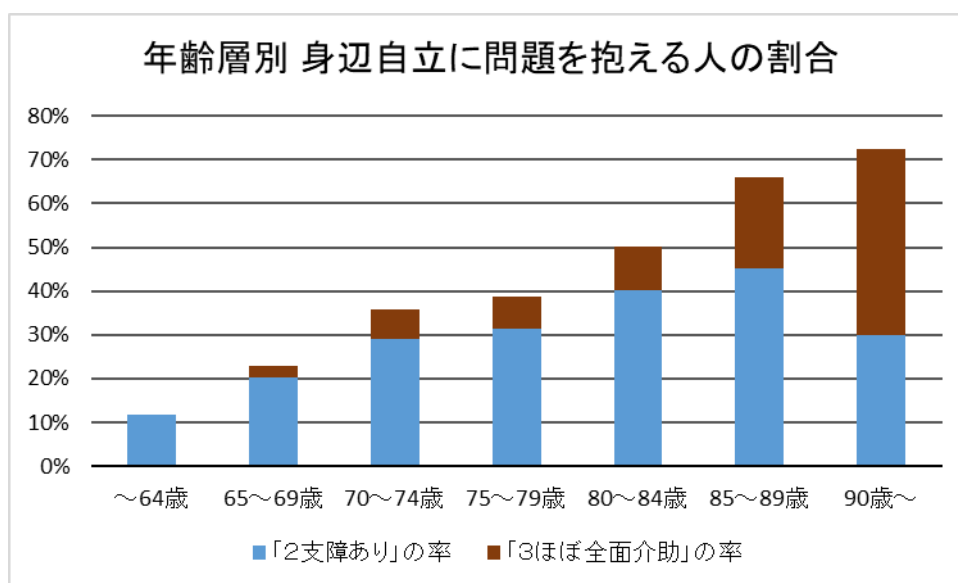
(年齢層別 身辺自立度)	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計
1. 支障なし	15.0	28.5	163.5	398.0	136.0	24.5	5.5	771
2. 支障あり	2.0	7.5	74.0	204.0	110.0	32.5	6.0	436
3. ほぼ全面介助	0	1.0	17.5	49.0	27.0	15.0	8.5	118
計	17.0	37.0	255.0	651.0	273.0	72.0	20.0	1325

身辺自立に何らかの問題を抱えている者（「2. 支障あり」または「3. ほぼ全面的に介助が必要」と答えた者）の割合は年齢層が高くなるにつれどのように変化しているだろうか。これを示すのが次の表及び図である。

年齢層が上がるにつれて日常生活の身辺自立度が下がり何らかの手助けを必要とする者

の割合が大きくなる傾向がはっきりしている。80歳以上になるとその割合が5割を超えている。

(身近自立上問題ある人の割合 年齢層別)	～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	全体平均
「2支障あり」の率	11.8%	20.3%	29.0%	31.3%	40.3%	45.1%	30.0%	32.9%
「3ほぼ全面介助」の率	0.0%	2.7%	6.9%	7.5%	9.9%	20.8%	42.5%	8.9%
計	11.8%	23.0%	35.9%	38.9%	50.2%	66.0%	72.5%	41.8%



(3) 要介護認定調査について

(全員に対して)

問3 あなたは介護保険の要介護認定調査を受けましたか。

1. わからない。
2. 認定調査を受けたことがない。
3. 認定調査を受けた。→ その結果を以下から1つ選んでください。
 - ① 認められなかった ② 要支援1又は要支援2
 - ③ 要介護1 ④ 要介護2 ⑤ 要介護3 ⑥ 要介護4
 - ⑦ 要介護5

「3. 調査済み」が36.8%、「1. わからない」または「2. 未調査」の合計が63.1%であった*。

前回調査時には8割近い人が「1. わからない」または「2. 未調査」と答えたが、それと比べると、今回調査では認定調査を受けた人が明らかに増えている。

(要介護認定調査)		人	%	前回調査%
1 わからない		237	17.7%	79.3%
2 未調査		607	45.4%	
3 調査済み		492	36.8%	20.7%
	①不認定	36	2.7%	3.3%
	②要支援1,2	141	10.6%	5.4%
	③要介護1	66	4.9%	2.8%
	④要介護2	103	7.7%	2.1%
	⑤要介護3	57	4.3%	1.4%
	⑥要介護4	35	2.6%	1.6%
	⑦要介護5	22	1.6%	1.0%
	結果待ち	3	0.2%	3.1%
	詳細不明	29	2.2%	
合計		1336	99.9%	100%

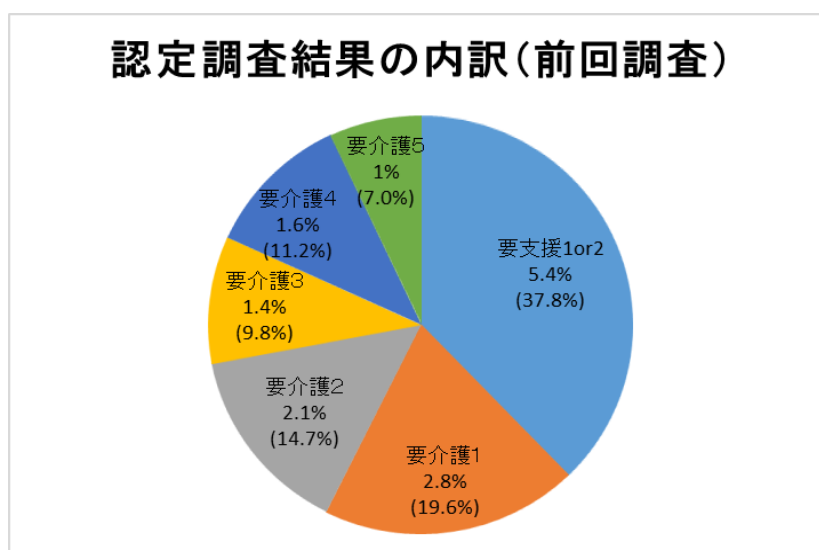
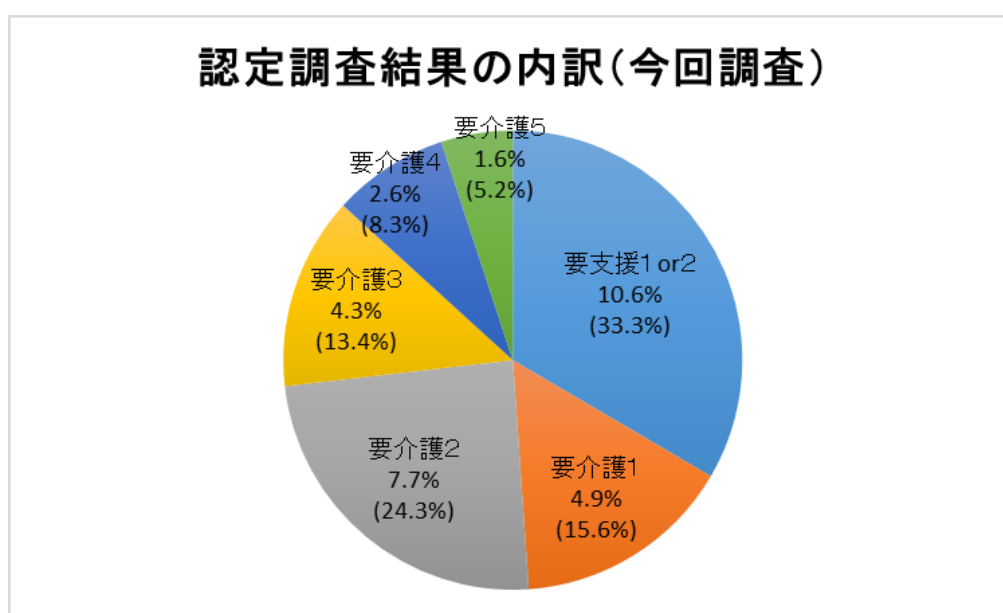
(無回答 : 124)

※ この問については、前回調査同様に回答欄に無記入の者が多かった。しかし、別の問で介護サービスを受けていると答えていれば、認定調査を受けていることは明らかである。また、介護サービスを受けておらず、かつ、受ける必要も感じていないと記述欄に答えている者であれば、この問の回答は「1」または「2」となる可能性が高い。また、

他の記述欄等に、認定調査を含め介護の仕組みについてまったく知らないと記述している者も少なくなかった。このような者の回答も「1」または「2」となる。このように、回答欄に無記入であっても他の欄への回答等からこの欄への回答が容易に推定できる場合は、推定値を回答として扱った。

今回調査では、要支援1～要介護5のいずれかの認定を受けた者が回答者全体の31.7%になるが、前回調査では14.3%であった。この数字からも、中国帰国者の介護認定調査がこの約5年間で大きく進んだことがわかる。

回答者の31.7%が受けた認定の内訳をみると、下図のようになっている。前回調査時には「要支援1, 2」と「要介護1」の合計が認定者の6割弱であったが、今回調査では5割弱となり、「要介護2」「要介護3」の比率が大きくなっている。



(4) 介護サービスの受給について

(全員に対して)

問4 あなたは現在、公的な介護サービスを受けていますか。

1. 受けている。
2. 受けていない。

「1. 受けている」と答えた者の割合は、この問いの回答者1431人の4人に1人以上、25.9%となっている。前回調査では13.1%であり、5～6年のうちにほぼ倍増したことになる。

(介護サービス受給状況)	人	%	前回調査%
1 現在受給している	371	25.9%	13.0%
2 受給していない	1060	74.1%	87.0%
計	1431	100%	100%

(無回答、不明：29)

年齢層毎の受給者の割合は、前回調査と同様、年齢層が上がるにつれ上昇傾向にあり、75歳以上は4人に1人以上、90歳以上では2人に1人以上が受給者となっている。

(年齢層別 受給状況)	～59 歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95歳 ～	年齢 不明	計
1. 現在受給			7	48	183	85	33	11	1	3	371
2. 受給なし	3	16	35	226	513	215	42	6	1	3	1060
計	3	16	42	274	696	300	75	17	2	6	1431
受給者率	0%	0%	16.7%	17.5%	26.3%	28.3%	44.0%	64.7%	50.0%	50.0%	25.9%
前回受給者率	0%	4.2%	7.7%	12.2%	21.5%	27.6%	31.8%	50.0%	0%	0%	13.0%

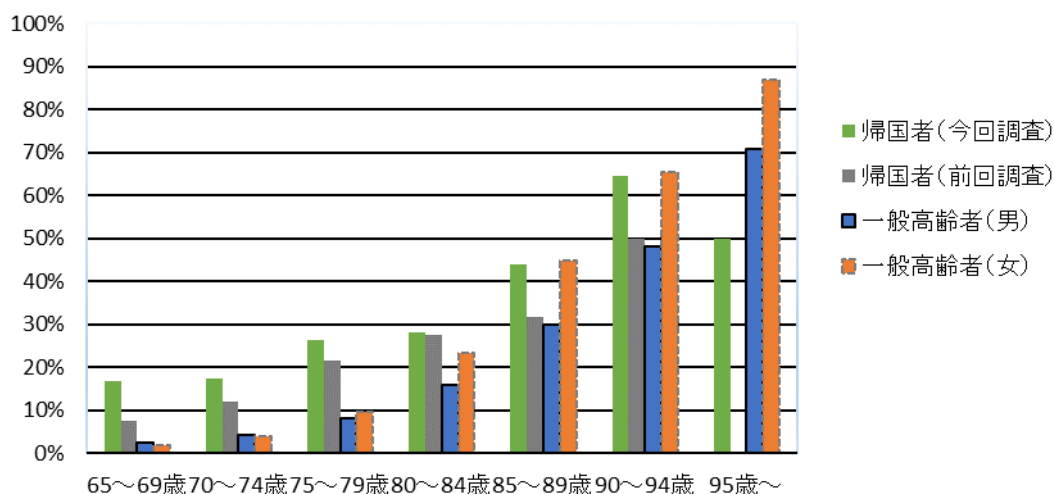
年齢層毎の受給者の割合については、一般日本人高齢者の男女別統計データが公表されており参考にできる。

(一般日本人高齢者の 年齢層別 受給者割合)	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95歳 ～
一般日本人高齢者(男)	2.4%	4.4%	8.1%	16.0%	29.9%	48.0%	70.9%
一般日本人高齢者(女)	1.8%	4.1%	9.7%	23.4%	44.9%	65.3%	86.8%

※ 上表の「一般高齢者（男）」「一般高齢者（女）」は、厚生労働省「平成 29 年度介護給付費等実態調査の概要（平成 29 年度 5 月審査分～平成 30 年 4 月審査分）」図 2「65 歳以上における性・年齢階級別にみた受給者数及び人口に占める受給者の割合」から引用した数値。

中国帰国者及び配偶者と一般日本人高齢者の介護保険サービス受給者割合を比較すると、中国帰国者及び配偶者の受給者割合は、特に 80 歳未満の年齢層において一般日本人高齢者よりもかなり高めであることがわかる。

年齢層別介護サービス受給者率



(4-1-1) 受給サービスの種類について

(現在介護サービスを受給している者に対して)

問4-1-1 どんな介護サービスを利用していますか。

1. 訪問介護
2. 通所介護 (デイサービス等)
3. 短期入所 (ショートステイ)
4. 施設入所 (老健等施設に常時入所)
5. その他 ()

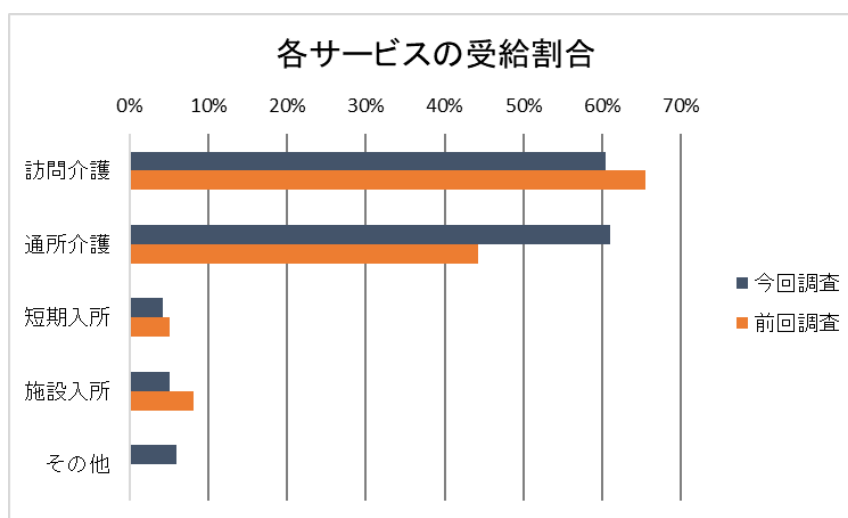
前問で現在介護サービスを受給していると答えた者371人に受給しているサービスの種類について聞いたところ、354人が回答した。

訪問介護を受けている者(60.5%)と通所介護を受けている者(61.0%)が多く、短期入所や施設入所は各々4~5%程度である。

なお、1人で複数の種類のサービスを受けている場合もあるため、合計が100%とはなっていない。また、「その他」は介護器具、特殊寝台のレンタル等である。

(受給サービスの種類)	件数	%	前回%
1 訪問介護	214	60.5%	65.5%
2 通所介護	216	61.0%	44.2%
3 短期入所	15	4.2%	5.1%
4 施設入所	18	5.1%	8.1%
5 その他	21	5.9%	0.1%
計	484	136.7%	123.0%

※受給者計371人中354人が回答



(4-1-2) 中国語でのサービスについて

(現在介護サービスを受給している者に対して)

問5 現在受けている介護サービスでは中国語でのサービスが受けられますか。

1. 中国語でのサービスが受けられる。
2. 一部、中国語でのサービスが受けられる。
3. 中国語は使えない。

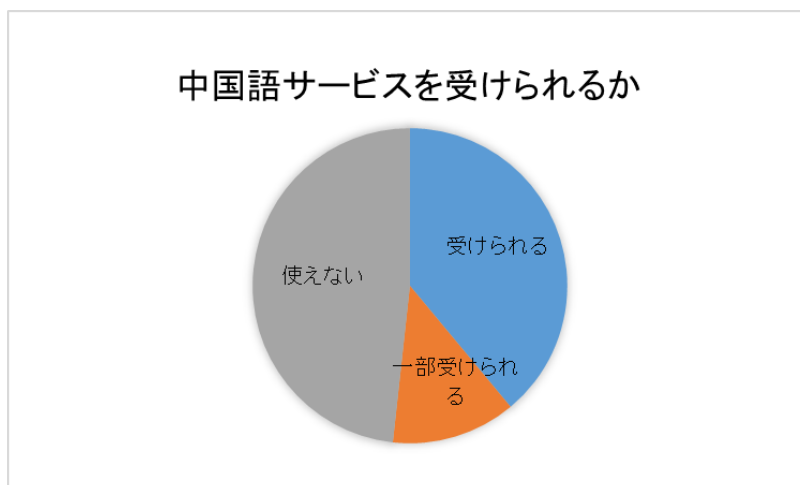
現在介護サービスを受給していると答えた371人中333人がこの問いに答えた。

複数のサービスを受給している者がそれぞれについて中国語サービスについて答えるケースも混じっているため、回答件数は344となっている。

「1. 中国語でのサービスが受けられる」または「2. 一部、中国語でのサービスが受けられる」との回答の合計は5割を超える。

前回調査ではこの質問がなかったため、今回調査の結果と比較することはできないが、前回の回答の自由記述欄や補足記述中に「中国語でサービスが受けられない」、「言葉が通じず意思疎通ができない」という記述が大変多かった。今回調査でも「3. 中国語は使えない」がまだ半数近くを占めており、中国帰国者の介護において言葉の問題が依然として大きな問題であることには変わりがないと思われるが、前回調査で受けた感触を元にして5年半後の調査結果を見ると、この言葉の問題についてはかなり大きな改善が見られたように感じる。

(中国語サービス)	件数	%
1. 受けられる	134	39.0%
2. 一部受けられる	44	12.8%
3. 中国語は使えない	166	48.3%
計 (回答者 333 人)	344	100.0%



(4-1-3) 受給サービスについての満足度

(現在介護サービスを受給している者に対して)

4-1-3 現在受けている介護サービスに満足していますか。

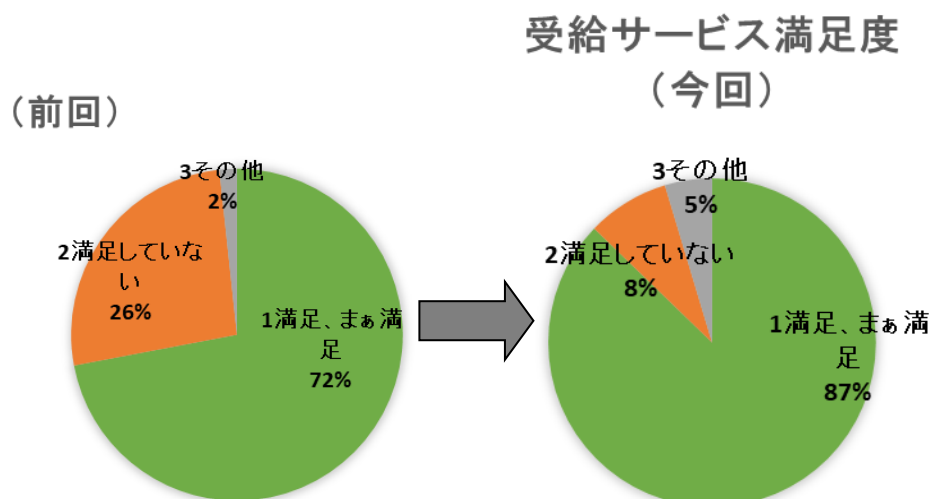
1. 満足、または、まあ満足。
2. 満足していない。
3. その他 ()

現在介護サービスを受給していると答えた371人中335人がこの問いに答えた。複数のサービスを受給している者がそれぞれについて答えるケースも混じっているため、回答件数は344となっている。

今回は回答件数の87.2%が「1 満足、または、まあ満足」と答えている。その中には中国語によるサービスが受けられていて満足しているとの記述があるものも含まれる。

前回調査においても、満足度は比較的高かった(72.1%)が、「満足していない」とする回答も26.3%あった。そのうち4分の3以上が言葉の問題を理由にしていた。今回満足度が上がった主な理由は言葉の問題について改善が見られたことによるのではないかと考えられる。

(受給サービス満足度)	件	%	前回調査%
1 満足、まあ満足	300	87.2%	72.1%
2 満足していない	28	8.1%	26.3%
3 その他	16	4.7%	1.7%
計 (335人)	344	100.0%	100.1%



(4-2) 介護サービスを受けていない理由について

(現在介護サービスを受けていない者に対して)

問4-1-1 公的な介護サービスを受けていない理由は。

1. 健康であり介護は不要。
2. 必要を感じるが、家族の助けで生活したい。
3. 必要を強く感じるが、手続きがわからず介護が受けられていない。
4. 必要を強く感じ申請しているが、適切な施設がみつからないまま。
5. 前に利用したことがあるが、中国語が通じない等、不満足であったため止めた。
6. その他 ()

現在介護サービスを受給していない者に対して、介護サービスを受けていない理由について聞いた。

(介護サービス不受給の理由)	人	%	前回
1. 健康であり介護は不要。	665	66.4%	65.9%
2. 必要だが、家族の助けで生活したい。	242	24.2%	21.9%
3. 必要だが、手続きがわからない。	41	4.1%	6.2%
4. 必要だが、適切な施設がみつからない。	17	1.7%	1.3%
5. 前に利用したが、不満で止めた。	15	1.5%	1.6%
6. その他	21	2.1%	3.1%
計	1001	100%	100%

(1,060人中1,001人が回答)

※ 6択のうち一つを選ぶものであったにもかかわらず、回答者の中には「1」と「2」、「2」と「3」のように複数を選んだ者もいたため、これを無効とせず、例えば「1」と「2」を選んだ場合には、「1」と「2」に各0.5票と計算した。

「1. 健康であり介護は不要」が全体の約3分の2を占めていることは前回調査とほぼ同様である。これには、健康上不安はあるが身辺自立に問題はないというものも含まれている。

「4. 必要を強く感じ申請しているが、適切な施設がみつからないまま」には、現在申請中、待機中、中国語対応可能な施設がみつからない、等を含んでいる。

「6. その他」には、介護サービスを受けること自体を拒否する、申請したが不認可であった、入院等で停止中、認定を外された、配偶者の世話をすることで一杯であり自分の介護は考えられない等々が含まれる。

(5) 帰国者の介護に関する考え方、要望等

(全員に対して)

問5 介護サービスを受けているか否かにかかわらず、帰国者の介護に関する考え方、要望等があれば具体的に述べてください。

この記入欄への記述がまったくなかった者や「特になし」との記述のみであった者を除くと、回答者中の概ね3分の1の者がこの記入欄へ何らかの記述を行った。しかしその内容は、自身の健康状態や近況、支援給付金だけでは生活苦であること、現在居住している公営住宅の不满や引っ越しの相談、政府や援護基金の帰国者への関心への感謝、等々、「帰国者介護についての考え方や要望」としては扱えないものが少なくなかった。

この記述欄へは、現在介護サービス受給中と答えた回答者371名の約35%、現在受給していないと答えた回答者1060名の約40%が、何らかの記述をしている。ただし、この記入欄への記述が「特になし」「要求なし」等の一言のみの記述や設問とまったく無関係の内容のみの記述は除いた。

「帰国者介護についての考え方や要望」という設問であったが、回答記述のほとんどは介護についての自分の態度、状況、不安などを記したものだ。記述のスタイル、長短が様々であるだけでなく、その内容や具体性も多様であり、この欄の記述を何らか数量化して扱うことは不可能、不適切であろう。ここでは、比較的多数の者が記述した内容がわかるように、典型的・代表的な記述を選んで載せることにする。

なお、この記述の中には援護基金に対して回答やアドバイスを求める質問調のものもあった。これらについて援護基金で何らかの回答やアドバイスのできるものには可能な限り応え、概ね「わかった」「ありがとう」との反応を得た。

【 】内の「本」「配」は帰国者本人か配偶者か、「男」「女」は性別、数字は年齢を表す。

1. 介護サービスを受けていない人の記述例

(1) 中国語で介護サービスを、帰国者用介護施設や交流施設を

- ・今はまだ介護を受ける気はないが、言葉の問題があるので、そうなったときの困難は大変だと思う。帰国者関係の人が介護してくれるようになればと思う。【本女79】
- ・現在、生活上に大きい障害がありません。しかし、もう後期高齢者になって、体の変化は随時でると思います。帰国者の介護施設とサービス員の問題を解決してほしいと思います。【本女75】
- ・帰国者介護センターを早く！【配女69】
- ・現在、体の状況は前よりよくないですが、介護サービスを利用していない。これからは介護サービスを利用する時期が必ず来るとは思いますが、心配なことは言葉の問題です。日本語がうまくないため、交流のこともひとつの問題になります。私たちは強い希望があって、国は、帰国者に合う、中国語ができる老年館を設立していただきたいです。【本女75】

- ・ 最高希望：帰国者対象の介護センター（全国に1組織、各県に1カ所）
第二希望：介護施設では中国語でヘルパーと交流可。帰国者（出身）のヘルパーならもっとうい。
最低希望：介護施設には少なくとも1名の中国語がわかり中国帰国者の歴史を理解している通訳がいる。もしもこの3項目のどれも不可能なら、日本語がわからない孤児にとっては怖い行く末となる。【本男 79】
- ・ 私たちは、年を取って、日本語もうまくないし、日本人との会話もできない。精神的にむなしい。例えば、介護サービス施設の代わりに帰国者の活動、娯楽センターを増やし、中国語ができる若い人と歌ったり、踊ったり、または、簡単な日本語を学んだりすれば、皆さんと一緒に家のことを話して、気持ちも愉快でしょう。介護のことについては、よくわかりませんので、利用したくないです。【本女 75】
- ・ 日本は介護制度はよく整っているが、帰国者は①経済能力がない、②介護職員と日本語で意思疎通できないし、日本の食事にも馴染めないなので、利用しにくい。厚労省はこのことをもっと注視してほしい。【本男 76】

(2) まだ考えていない、考えたくない、受けずに暮らしたい

- ・ 今はまだなんとか自立しているので、介護サービスを受けるという考えにはなれない。【本女 74】
- ・ 現在、まあ健康ですが、高血圧、糖尿病、腰と足の病気などがあります。毎日お薬を飲んで、湿布を貼れば、良くなります。介護を受けないまま死にたい。【配女 76】
- ・ 介護を受けないまま死ぬのが一番いいと思っている。【本男 77】
- ・ 私は独居生活がもう8年になる。自分の家で暮らすことが一番だと思い、各種の介護施設への入所は希望しない。援護基金も、帰国者の老後生活（介護を受けずに過ごす生活？）についてより多く考慮してほしい。【本女 77】

(3) 今はだいじょうぶだがこの先不安、現在も困難で先々強い不安

- ・ 現在、介護は不要ですが、今後、いつ必要になるかわかりません。必要になっても、日本語不自由ですし飲食の習慣も違い、介護を受けても不便とあって心配です。【配男 76】
- ・ 私と夫は誰からの介護も望んでいません。しかし、夫は身体が弱く病院に行く日数が次第に増えてきています。私も血圧が高くメニエル氏症候群で毎月一回病院に行っています。周囲を見ても日増しに孤独な日本の老人が増え、私と夫が自分の力で病院に通うのもいつまで続けられるか、不安を感じながら過ごしています。……【配女 66】
- ・ 今の健康状態は介護を必要としない。しかし、年齢が増すにつれますます介護を要する状態に近づいている。聞くところによれば、介護サービスを提供する所はあるが遠く、中国語での介護はないという。【本男 83】
- ・ 我々夫婦には身近に子どもを連れてきていない。そのため、何か困難があったときに助けてくれる人がいない。常に人を派遣しどんな困難があるかを調べることはできないか。【配男 84】
- ・ 介護は受けていないが、身体の小さな問題があり、将来は必要になる。介護費用、生活費は年金で足りるのだろうか。【本男 78】

- ・ 永住帰国もう 30 年以上になった。健康ではないため 全て妻に世話してもらっている。介護が必要だと強く感じているが、手続きや、どんなサービスに相応しいか分からないので、まだ受けていない。中国人の設立した老人ホームがないのは一番の問題だ。居住地は小さい町なので、色々なことが分からない。高齢者に優遇策はあるか。敬老院に入所する場合、国から援助を受けられるか？ 【本男 86】
- ・ 私たち夫婦は、もう年を取って、援助が必要です。日本語はわかりません。中国語の通訳が必要です。病院へ行ったときに送迎の車も必要です。記憶力が段々減退になって、最近、道の方向によく迷っています。【本女 78、配男 85】
- ・ 夫婦とも 90 歳前後の多病の老人。老人ホームに入る申請をどうするか分からない。天命を待つのみ。息子は成人しているが、我々老人のことはまったくかまわない。【本女 87】
- ・ 私は喘息に罹って、三年前に間質肺炎にも罹りました。有効な治療方法はありません。この病気の体で、妻に世話しなければなりません。心が非常に重苦しいです。介護援助を期待していますが、会話ができなくて、日本人との交流もできません。心の中で苦悩しています。会話ができる施設に行きたいです。【配男 80】

(4) 介護受給の手続きが面倒、情報が得られない

- ・ 介護サービスを申請したいですが、通訳を探すとか病院の検査とか、その手続きは、本当に面倒だから、まだ申請していない。【配男 80】
- ・ 介護サービスの手続きは非常に面倒です。現在、介護 1 級になっても、検査とか代理人を探すとか、本当に面倒です。もう 80 才に近く歩きも困難なのに、何で介護 1 級ですか？よくわかりません。【本女 78】
- ・ 訪問介護を利用したいですが、手続きの申請はよくわかりません。中国語を話せる職員がいれば理解しやすいと思います。【配女 75】
- ・ 介護予防の活動に参加したいが、どこで中国語で介護予防の訓練をしているか知らない。介護を予防すれば国の負担も少なくて済む。これが一番いいと思う。【本女 75】
- ・ 自分で努力し最後まで自分で生活できるように頑張るつもりだが、介護施設が付近のどこにあり、どのような条件があれば介護サービスが受けられるか、情報も得たい。【本女 75】
- ・ 配偶者であっても同じように介護サービスを受けられますか？もし、受けられる場合には、今から、どのような手続きをすれば良いのか、よくわかりません。日本語はよくわかりませんので、介護サービスを受けることになる場合は、やはり、中国語が対応できるスタッフが望ましいです。不安な気持ち。料金のことでも知りたいです。【配女 75】
- ・ 現在、県では、孤児の介護に対して、責任を持っていないと思っています。私たちは、介護方面の政策も知りません。重視される方もいません。私たちは皆 75～80 才以上の老人で、いつ病気で倒れるかわかりません。本当に倒れた時に誰が私たちのことを世話してくれるかなあ？老後の生活に対して、非常に不安です。今まで、介護のことについては、私たちを訪問してくれた方はいません。お早めに私たちの介護のことを重視するようにお願いいたします。【本女 74】

- ・ 申請から実施までに時間がかかりすぎる。夫は心臓手術後毎日入浴しなければならないが、市営住宅は浴室が小さくシャワーもない。浴槽が高く、入浴はとても困難。すぐにでも解決しなければならないが、…。言葉の問題があり、中国語と中国の生活習慣がわかる介護員が必要。定期的または不定期にでも通訳を派遣してもらえると助かる。【本女 75】
- ・ 脚が痛み立ったままでいられない。将来、家事をするのも困難になるだろう。定期的に人を派遣してどのような援助が必要か調べることはできないか。何か具体的にやってほしい。【本女 79】
- ・ 昨年介護関係者が家に訪ねてきた。通訳もなく日本語が分からなく簡単なやり取りしかできなかった。最後、介護保険要介護認定・要支援認定等申請書を2枚置いて帰っていった。未だに要介護かどうか、介護を受ける条件など不明なままだ。【配女 78】

(5) 家族の助けで暮らしたい

- ・ 現在一人暮らし。家庭の仕事は自分でしている。毎週日曜日に息子が来て買い物をしてくれる。6週に1回病院に通っているが、息子が有休を取って連れてってくれるので、今のところ困ったことはない。自分で身体を動かすことが大事。天気の良い日は散歩。要支援のみ。【本女 92】
- ・ 現在、通院診察とお薬を取ることができますが、非常に不安です。日本語の理解に問題がありますので、病院へ行った時、いつも妻が同行しています。もし、妻が倒れたらどうすればよいか？難しいと思います。ほかの方に世話をして貰っても不便と思います。言葉が不便のため、ほかの方が家のことに介入することは良くないと思います。【本男 73】
- ・ 介護は受けていない。人に迷惑を掛けるのは嫌いだ。しかし、身体も弱くなってきて、…介護を受けるかどうか考えるときに心配なのは、①家族が仕事や子育てに忙しい。②介護を受けるとき中国引揚者として差別やいじめ。③費用がどのぐらいかかるか。④老人ホームでいろいろな事件が報道されている。やはり家で終末を迎えたい。【本女 84】
- ・ 私は介護サービスを受けたくない。中国にいる娘に日本に来て世話してもらえるよう申請したい。今一人暮らしで大変孤独。脳梗塞の後遺症があり、いつも頭痛、腰痛、脚も痛い。今年になって、物忘れがひどくなり、…料理をして火を使っても、別のことをして火のことを忘れてしまい、料理をだめにした。日本のガスコンロは自動で消火するので、大事には至らなかったが、自分で驚き怖くなった。今後何が起きるか心配だ。娘を呼ぶことが私の夢だ。【配女 68】
- ・ 昨年2月に関節炎の手術をし人工関節に換えた。結果良好で、歩くこともできる。年齢の関係で、肩を痛めて重いものを持たない等もあるが、毎週休みの時に子どもたちが買い物を手伝ってくれるので、大きな困難はない。【本女 82】
- ・ 子どもは東京に住んでいる。東京へ移って子どもの近くに住みたい。言葉も生活も子どもの助けと世話を受けたい。【本女 72】
- ・ なるべく寝たきりにならないように頑張っています。もし病気になって、自分で病院へ行けない場合は、訪問診療や訪問介護を利用できなければ困ります。私の日本語は不十分ですから、介護員等は日本語と中国語ができる人、道徳的な人、中国人を差別しない人が望ましい。本音は、家族の傍らで老後を過ごしたい。最後の延命治療は受けたくない。全国各地に二世用住宅があつて

子供が近くに住めるようであればいいのに。【配男 82】

- ・ 認知症に罹っていないが、デイサービスに参加したい。家で暮らしてきたい。介護施設に入所したくない。もし、認知症に罹っても、やはり夫婦二人で家で暮らした方が良いです。【本男 75】

(6) 老老介護の悩み

- ・ まだ自律している。しかし妻が重病で世話をしやる必要があり、家事はすべて自分がやっている。大変疲れる。【配男 81】
- ・ 身体の方はまだ何とかだいじょうぶ。糖尿病で毎日インスリン注射と薬。家では夫が料理、洗濯、掃除。時には妻（私）を連れて病院へ。ご苦労様です。子どもはそれぞれ自分の生活と仕事があるから迷惑はかけられない。【配女 76】
- ・ 現在は介護を必要としていないが、夫の世話をするのが大変だ。年齢が増したらいつか問題が出てくるかもしれない。【本女 79】
- ・ 自分の病を克服するのと重病の夫の世話をするとで大変。区には帰国者が24世帯あるが、帰国者向けの介護施設がない。各区にそのような施設ができれば理想的。なんとか解決に努めてほしい。【配女 70】
- ・ 妻の面倒を見ることで一杯で、まだ申請していない。帰国者二三世の介護員を増やすことが重要。帰国者二三世のデイサービスを（妻）利用したことがあるが、やはり入所式の老人ホームでないと不便。中国人介護員のいる老人ホームを希望する。去年10月妻と中国に帰り妻を中国の老人ホームに入れた（1ヶ月の試行）ところ、中国語は通じるがサービスがだめで、日本に戻るしかなかった。仮にサービスがよくても、付き添いもなく妻をひとり中国に残すことはできない。【本男 80】
- ・ 現在、夫婦二人で頑張っていてやっています。室内外のこと等はゆっくりやって、夫婦の協力で日常生活を維持しています。…政府に一つ伺いたいことがあります。家族の世話代金と介護サービスを利用した費用と比べて、政府よりいくらか援助してくれますか？【本女 79】

2. 介護サービスを受給中の人の記述例

(1) 現在のサービスにほぼ満足

- ・ 週二回（月曜日、木曜日）、介護の方が家にきます。お部屋のお掃除をしてくれます。中国語もできます。私はもう80才になって、あの方に感謝しております。【本女 79】
- ・ 介護施設の職員は中国語は話せないがとても親切で、行き帰りとも、三階の我が家のドアまで送り迎えしてくれる。毎週2回9時から4時まで。昼食もおいしい。とても満足している。【配男 82】
- ・ 夫婦で介護を受けているが、とてもいいので親切で満足している。【本男 76、配女 74】
- ・ すでに介護サービスを受給している。基本的に満足している。政府に迷惑はかけたくない。【本男 83、配女 79】
- ・ 現在の介護はすでにとってもよくなっている。政府、社会に感謝。【本女 75】
- ・ 2018年2月27日脳梗塞で2ヶ月間入院。3月9日〇〇病院へ転院1か月後退院。今訪問介護を利

用しながら毎週水曜日 45 分ハビリに励んでいる。また週に 4 回毎回 45 分 介護スタッフが昼食を用意してくれる。【配男 83】

- ・ 現在要介護 3。介護用三輪車？が備えられていて、万事うまくいっている。【配男 90】
- ・ 今は要介護 1。医者が定期的に家を訪れ話をする。まずまず。【本女 82】

(2) 中国語でサービスを、帰国者向けのサービスを

- ・ 介護サービスを受けているのに、中国語を理解できる職員は一人もおらず、意思疎通がとれず、デイサービスを受けてもあまり楽しくない。もし、介護職員の中に中国語を話せる人がいればとても助かります。【配女 74】
- ・ 高血圧、胃病、睡眠障害等。昨年人工関節手術をし、日常生活を自分では出来なくなり、介護サービスを受けている。入浴、掃除等。地区の介護事業所は日本語のみで、誤解が生じたりして不便だ。中国語が話せる職員がいればもっと良くなると思う。【本女 75】
- ・ 脳出血で 5 年ねたきり。歩くことも出来ない。〇〇苑で介護サービスを受けている。言葉が通じないので困っているが仕方がない。もしも、中国語で過ごせる場所があれば、心安らかに晩年を送ることができるのだが。【本女 76】
- ・ 現在入所中の特別養護施設の介護員は中国語がわからない。身体具合が不調、耐えられない痛みを感じる時でも適時に治療を求めることができない。いつも経過観察ばかりで診療が延び延びになり、結果的に重症になる。もう要介護 5 になってしまった。他にも 3 人の入院中の老人が、治療に回すことが遅れて救急車で亡くなった。【本男 78】
- ・ 父は 2018 年 12 月に養老院へ入った。父は日本語がまったくできないので、養老院でも可哀想だ。中国語が出来る介護員もいない。もしも中国語が出来る介護員がいればどれだけ便利で父も寂しい想いをしないで済むだろう。日本語が出来ない老人たちを一カ所の養老院に集め、介護員が中国語で会話する…こういうふうになれば、娘たちは感激きわまりない。【配男 89 娘代筆】
- ・ 現在、毎週火木金にデイサービスに通っている。しかし、日本語で自分の意思を表現できないので、意思疎通は難しい。中国語でのサービスを希望する。【配女 75】
- ・ 援護基金の帰国者介護への関心、努力に感謝。中国人を対象にした専門の介護機関ができれば一番いい。難しいことだとは分かっているが、中国語による、帰国者専門の介護サービスがほしい。【本女 78】
- ・ 週一回デイサービスへ行きます。介護施設の中に一人しか中国語ができる人がいませんが、時々いないこともあります。施設の中で、一般の日本人と一緒に同じ日程で活動するのは、慣れていないし、寂しいと感じています。【本男 77】

(3) 入所施設に入りたい、先々の不安

- ・ 現在デイサービスを受けている。今後寝たきりになってしまう場合のことを考えると心配だ。貧困層の私たちを受け入れる適当な介護施設があるのでしょうか。【本男 82】
- ・ 今は、一人で暮らしていますが、もし、動けない状態になり一人で暮らすことが困った場合は、老人ホームに入れるのでしょうか。特に中国語ができる無料の施設に入りたいです。【本女 75】

- ・ 私たち夫婦は、平成 23 年 6 月にデイサービスセンターを利用し、まもなく 8 年間になります。昨年介護老人センターを申請しましたが、気にいった施設は見つからなかった。孤児たちは自分の祖国に帰ってきてても年を取って、生活は大変困難です。私は仕事ができなくて、障害者の妻の身の回りのことを世話しなければなりません。息子と福祉担当者は、数カ所の施設を探してくれましたが、良い施設は費用が高くて、入る資格はない。私は心臓病があって、歩くも大変で、良くない施設には、トイレが遠くて、入る人も少ないです。本当に困ります。【配男 78】
- ・ 毎週月水金にデイサービスに通っている。今はまだいいが、数年後には妻も 80 を過ぎる。どうすればいいだろうか。老人ホームに入れれば安心だが、入れるものだろうか。【配男 90】
- ・ 今、夫婦で介護サービスを利用しているが、病状が重くなっていった時どうになってしまうか不安。お金のこと、家のこと、いろいろ。【本男 74、配女 69】
- ・ 現在、週 3 回デイサービスを利用しています。車が迎えに来て午前 9 時から午後 4 時まで介護施設にいます。お昼のご飯代は 550 円です。体が動けるうちはできますが、これから動けなくなったら行けないと思います。一番困っていることは、病院へ行った時、日本語がわからないことです。今後の状況は、どんなふうに変化するかわかりません。【本女 82、配男 83】

(4) 介護・医療への不満

- ・ 現在週 2 回デイサービスを利用しているが、訪問介護も利用できるようにしたい。足が痛くてベッドを離れられないので、家のお掃除をして欲しい。中国語できるヘルパーが良い。【本女 80】
- ・ ゴミ出しに困っている。ヘルパーに助けてもらえないか。【本女 79】
- ・ ヘルパー(日本人)のサービスに不満。一回 45 分のサービスなのに、家は狭いので 10 分で掃除の仕事が終わる。ベランダの清掃や冷蔵庫の拭き掃除等やってくれればいいのに、…。【本女 76】
- ・ 高齢となり一人で家で入浴するのは危険。定期的に介護施設に行っているが、週に一度だけで少なすぎる。もっと何回も入浴することはできないか。【本女 77】

(5) 老老介護の悩み、夫婦別居の不安

- ・ 現在、確かに高齢者になった、体が年々弱くなり、特に両足の膝が毎日痛くて、主人のことも世話しなければなりません。本当に困っていますが、生活のため引き続き助けなければなりません。どうしてもできなくなったら、公的な介護施設に入ります。【本女 78】
- ・ 夫は要介護 2。数年前に脳腫瘍(悪性)の手術をした。何度か脳梗塞を起こし歩行困難、会話困難。数日前には救急車で病院へ。家のことすべては私が面倒を見ている。私は休みがとれなくて二年前には梗塞手術、現在は腰間盤突出、関節痛、糖尿病、高血圧等。毎週 2 回 40 分の理学療法を受けている。悩み事がありよく眠れない。胸の内の話したいことがある。楽しく幸福な晩年を過ごしたいと思っているが。【配女 72】
- ・ 一番不安なことは、今後、自己管理ができなくなって公的な介護施設に入所した場合、日本語がよくわからないし、困ったことや面倒なことが多いと思います。主人は、もう 80 才の老人になって多病で、耳が聞こえないし、日本語も話せない状態です。もし入所する時になって、私たちが別々の施設に入所するようになったら、どんなふうに住生活すれば良いか想像するだけで不安にな

ります。【本女 76】

- ・ 私は帰国者の配偶者です。私たち老夫婦は、日本語のレベルは非常に良くないです。以前、日本語を勉強したことがあります。二、三十年間使っていないため、殆ど忘れてしまいました。特に、私は耳が遠く、右側の耳は殆ど聞こえませんが、左側の耳は補聴器を付けても 30%の聴力しかありません。将来、どこの施設に入っても、妻と一緒に（同じ施設に）いたい。これは、私たちの最大の困難と不安なことです。【配男 80】
- ・ 持病喘息に加え、去年肺癌で手術。手術後にある程度回復し定期検査を受けながら体力回復のためにデイサービスに通所（週一）。家事全般を高齢持病のある主人に任せることができないので、去年の 12 月頃からヘルパーさんに掃除等の手伝いをお願いしている。主人は日本語がほとんどできないし難聴で中国語さえ聞き取れない場合が多く、家事も極一部しかできないため、大半は病人の自分がやらないといけない状態。休める時間が少なく、精神的、体力的にも疲れている。週一のデイサービス、ヘルパーさんの掃除手伝い、助かっていてありがたい。【本女 75】
- ・ 私は、老人施設に入っていない。主人より少し元気ですが、政府にご迷惑を掛けたくないです。今は、デイサービスを利用しています。主人は、大変です。肥満で、体も大きし、私は小柄で主人に紙おむつを取り替えするとき、よく転んで、体中傷だらけです。【本女 76】

(6) 子どもに頼れない

- ・ 4 年前に難病の膠原病に罹って、繰り返し入退院になっています。薬の副作用の影響で、右側の大腿骨頸部が壊死、骨折しましたが、人工関節を置換させました。今の病状は、すこし安定しています。毎日お薬を飲んで維持しています。今、非常に不安なのは、老後自己管理ができない場合は、自分の生活はどうすれば良いか。息子は、自分の仕事と家庭の生活が忙しくて、私に面倒を見ることは出来ないと思っています。私の希望は、帰国残留孤児達の専用養老施設に期待しています。言葉が不便のため、日本人のいる老人ホームに入ったら、困ることと不便なことがあると思います。【本女 78】
- ・ 介護を受けて8年になる(脳血栓)。妻は3年前に亡くなった。娘たちはみな自分の家庭が有り、迷惑はかけたくない。いつ死ぬかは自然にまかせればいい。生活日本語はまあまあ。学ぶのは好き。わからない日本語があれば日本人に聞く。【本男 79】
- ・ 私は、難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）に罹っていますが、普通の食べ物を食べられません。会話もできません。日本語も書けません。入院の時、本当に困っています。家にいても、そばに世話する人がいないと困ります。娘達の体も良くないし、彼女達は、自分の家庭生活もあります。【本女 73】